

## ヨシ群落縁辺部における仔稚魚等採捕調査結果

上垣 雅史・田中 秀具・上野 世司

### 1. 研究目的

ヨシ群落縁辺部において、外来魚および在来魚の仔稚魚等の発生・生息状況を把握するため、小型曳網を用いたヨシ巻き方式による捕獲調査を行った。

### 2. 研究方法

琵琶湖7地先（図1）のヨシ群落の縁辺部で、平成22年5月から7月にかけて計6回捕獲調査を行った。捕獲は調査員2名で小型曳網（図2）の両端を持ち、ヨシの株を巻くように囲い込んだ後、袋網に魚類等を追い込む方法で行い、1地先につき3回行った。



図1 調査地先

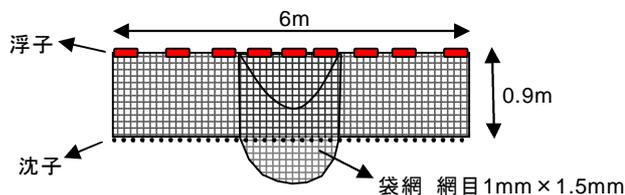


図2 調査に使用した小型曳網

### 3. 研究結果

表1に魚種、調査地先別捕獲個体数を示す。総個体数中、コイ科魚類が3,323個体(49.4%)と最も多く、そのうちカネヒラが67%を占めた。次いでエビ類1,994個体(29.7%)、外来魚(オオクチバス、ブルーギル)1,013個体(15.1%)となった。

地先別では、南浜の1,469個体のうち90%はコイ科魚類であり、種数も多かった。海老江(丁野木地区造成ヨシ帯内側)は2,492個体と調査地点中で最も多く捕獲されが、その65%がヌマエビであった。山田は240個体が捕獲されたが、オオクチバスが98%を占め、捕獲された種数も調査地先の中で最も少なかった。

表1. 魚種、調査地先別捕獲個体数

魚種	牧	山田	真野	針江	岩熊	海老江	南浜	合計	割合
カネヒラ	234	1	39	261	651	67	974	2,227	33.13%
ヌマエビ	3	0	0	0	2	1,621	26	1,652	24.58%
ブルーギル当歳魚	750	1	0	0	0	0	0	751	11.17%
ウグイ	89	0	9	57	2	0	351	508	7.56%
フナ類	0	1	0	8	2	369	1	381	5.67%
スジエビ	11	2	10	1	5	279	4	312	4.64%
ワカサギ	3	0	2	0	224	0	80	309	4.60%
オオクチバス当歳魚	27	235	0	0	0	0	0	262	3.90%
その他コイ科*	2	0	0	9	0	142	2	155	2.31%
ヨシノボリ	10	0	0	0	44	2	7	63	0.94%
オイカワ	33	0	2	0	0	0	0	35	0.52%
テナガエビ	0	0	7	3	0	0	20	30	0.45%
ホンモロコ	0	0	2	14	0	0	0	16	0.24%
ウキゴリ	3	0	0	0	1	10	2	16	0.24%
ヌマチチブ	0	0	0	0	0	1	2	3	0.04%
その他タナゴ類	0	0	0	0	0	1	0	1	0.01%
合計	1,165	240	71	353	931	2,492	1,469	6,721	

\*ウグイ、フナ類、オイカワ、ホンモロコ、およびタナゴ類を除いたコイ科とした

